

参議院選挙に寄せて



都道府県土地改良事業団体連合会
会長会議顧問

参議院議員 **進藤 金日子**

私は、この度の参議院選挙におきまして、当選の栄に浴することが出来ました。

今後は、土地改良に関する方々が心を一つにさせていただいた結果を胸に刻み、皆様のご期待に応えるよう頑張っております。

さて、私は、全国を廻り皆様から色々なご意見を伺ってまいりましたが、農政新時代を拓いていく上で、その基盤となる農地と水利施設の保全と機能の向上に不可欠な予算の確保が必要であるとの認識を深くしたところです。

私は、「土地改良は日本の命綱」であることを強く訴えてまいりました。これからも固い決意の下、微力ではありますが、皆様とともに活動してまいります。

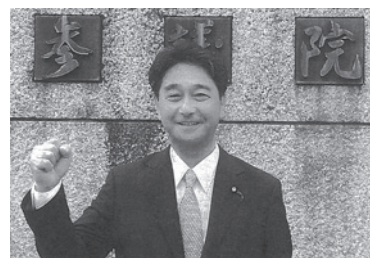
今後とも皆様のご理解とご支援、そしてご指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに、貴県土地改良事業団体連合会の益々の発展と、会員の皆様お一人おひとりのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成28年8月5日 土地改良新聞

「現地を足運び、いろいろな方々の声をお聞きし、現在の国政の状況をしっかりと伝えたい。これまでキャッチボールという言葉を使ってきたが、まさに現場・地域と国政の場を行ったり来たりするボールになるよう、頑張っていきたい」

「この1年間、時間の許す限り全国を廻ったが、お会いした方々が走馬灯のように思い浮かび、国会議事堂に繋がっていくように感じた。国会の場に支援していただいた方々の気持ちをしっかりと代弁していくのが自分の使命であることを強く認識した」



決意新たに初登院



参院議員会館・執務室にて

「若い人たちが農業に希望の持てるような政策を実現していかなければならない。食の安全・安心を訴えており、国民の皆様が将来に亘り、食料供給の面で不安を抱かぬよう、消費者の視点からの政策を進めていかなければならない。農家はもとより、消費者の視点も重視していくことが大切だ」

「国政において、これまで6年間、土地改良の代表が不在という状況を続けてきた。私が全国を廻る中で、土地改良の代表を出すべきだという関係者の熱い思いが伝わってきた。そのような土地改良関係者の熱い思いにしっかりと応えられるよう、農水省での実務経験を活かしてまいりたい。そのための努力は惜しまない覚悟だ」

進藤議員は、同じく初登院のJAグループ組織代表・藤木真也議員と、互いの活躍を誓い合い固い握手を交わす場面もあった。

最近の秋田での行事

「国政報告会」秋田県土地改良事業団体連合会仙北支部

進藤議員オフィシャルサイト (<http://www.shindo-noson.jp/>) より

10月14日は、地元秋田の大仙市で国政報告会を開催しました。稲刈りが概ね終わった秋田ですが、お忙しい中、多くの方々にご来場いただき感激でした。栗林大仙市長、松田美郷町長、県議、市議、町議の皆様にもご臨席いただきました。



全国土地改良施設管理事業推進協議会研究会



9月29日、大潟土地改良区等が主催する「平成28年度全国土地改良施設管理事業推進協議会研究会」がホテルメトロポリタン秋田で開かれ、全国各地から約150名が参集した。

まずは、主催者として全国土地改良施設管理事業推進協議会の丸目賢一副会長が挨拶を行い、熊本での震災や北海道・岩手の台風被害などについても触れながら日頃からの施設管理の重要性を述べた。次に、大潟土地改良区の後藤幸三理事長も、秋田での開催について触れながら、歓迎の意を表した。

続いて、農林水産省農村振興局整備部水資源課施設保全管理室の大内毅室長が「農業水利施設の保全管理」として講話を行った。近年叫ばれている農業水利施設の老朽化に対するストックマネジメントや、施設管理に対する国の公的支援の概要について資料を用いて話し

れ、土地改良区等の管理体制の強化などの重要性を述べた。

その後も大潟村教育委員会北林 強教育長が「八郎潟干拓と大潟村の現状」と題して講演し、更に地元大潟村にある有限会社正八の宮川正和代表取締役が「正八の取組について」として特別講演を行った。また、大潟土地改良区の金野貴志課長補佐が「大潟土地改良区の事業概要について」として事例発表を行った。最後は、北海道にある北海土地改良区の尾田則幸理事長が、次期開催地を代表して挨拶を行い、閉会となった。長時間に渡る研修となったが、参加者達は真剣に講演に聞き入っていた。

翌30日は、南部排水機場など大潟村の施設を巡る「現地研修会」も行われた。



● 災害時協定を締結、農業水利施設の

9月8日、秋田県土地改良事業団体連合会雄勝支部（大坂芳市支部長）と雄勝建設業協会（菅良弘会長）は、災害時にため池や用排水路など農業関連施設の応急対策を行う協定を締結した。

同支部を構成する会員のうち、4土地改良区と1

管理委員会が管理する農業水利施設は湯沢市と羽後町に54カ所ある。協定は、災害時に互いに連携して施設の被災状況を確認し、同協会（構成23社）がバリケード設置や土のうを積む安全対策、応急対策工事などを行う内容となっている。



頭首工（豪雨時）



幹線水路（豪雨時）

農地中間管理事業の推進に向けた取組について



秋田県農業公社は、農地中間管理事業の推進に向けた取組を加速化するため、一段とステップアップした取組を進める事としており、その一環として、7月25日から8月5日にかけて県北・中央・県南の各ブロック毎に現地研修会を開催した。

これらの現地研修会のうち、中央ブロック現地研修会は、8月2日に秋田市河辺岩見三内で開催された。まず、河辺岩見三内地区コミュニティーセンターで農地耕作条件改善事業の事例報告などが行われ、その後は、農地耕作条件改善事業で暗渠排水の整備が行われた岩見三内1地区のうち萱森工区内のほ場や乾燥調整施設などの現地視察を行った。現地視察の案内は農事組合法人かみさんないの代表理事鎌田英文さんが担当され、事業内容を参加者に分かり易く説明していただいたほか、アスパラガス栽培の苦労話、失敗談などまで話していただいた。

また、10月6日には、秋田市山王の秋田県市町村会館で「農地中間管理事業の推進に係る秋田県全体会議」が開催され、県内市町村の農林部局や農業委員会事務局の職員を中心に150名以上が参加した。

会議では、本年度9月末までの農地中間管理事業の実績の報告などが行われたが、参加者の関心が最も高かったのは機構集積協力金に関する説明。交付額に関するルールが本年度変更されたことに伴う経過措置の導入と、再配分ルールの追加に関して秋田県の担当者より説明がなされた。参加者の質疑もこの機構集積金のルールの追加に集中し、活発な質疑応答が行われた。

※農事組合法人かみさんないの代表理事鎌田英文さんは10月21日に急逝されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

応急対策を（土地連雄勝支部）

湯沢市の湯沢グランドホテルで行われた調印式で、大坂支部長と菅会長が協定書に署名。大坂支部長は「災害への備えを確かなものとしたい」、菅会長は「早めに対応して被害がないように心掛けたい」と述べた。

これまで、秋田県内において土地改良区が管理

する農業水利施設等の災害時における他団体との協定締結の事例は1件にとどまっており、今後は、災害協定に基づく被災施設への迅速な応急対策を講じるほか、平時においても担当者間の連携を図り、協定施設の現地確認や訓練を実施していく予定となっている。



9月8日、調印式の様子

↑ 水土里ネットの スキルアップ研修会



9月15日、本会で2回目となる「水土里ネットのスキルアップ研修会」が開催され、全県の土地改良区から32名が集まりました。職員会総会の際に実施したアンケートの結果に基づきまして研修テーマを、「土地改良区で必要な技術を磨く」として、意見の多かった「施設の維持管理に係わる技術」と「土地改良区の運営に関する基礎知識～賦課金を中心として～」を本会の職員を講師として行いました。




S改良区
技術系職員

「頭首工等基幹施設の維持管理について、ゲートの特性・立地条件等によって多様な方法で管理が行われているのを写真・動画中心で解説して頂き、メンテナンス性、作業者の安全性を中心に考えること、目視点検が単純ながらも確実かつ重要な方法であることを改めて感じました。運営に関する基礎知識では日々行っている賦課業務の裏付けになる考え方を解説して頂き土地改良法にもよく記載されてる『～日から起算して』等の期間の考え方など、曖昧に覚えていたことについての具体例を示して頂いた事で、色々クリアになった部分もあり、全体を通じて有意義な研修でした」

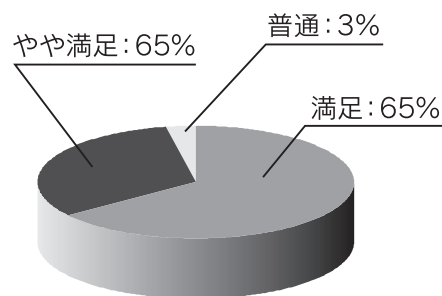



N改良区
事務系職員

「施設の維持管理に係わる技術については、普段現場を見る機会がない私にとっては初めて知る事ばかりでした。現場に出ている方々の努力と苦勞を少しは知ることが出来ました。土地改良区の運営に関する基礎知識については、三条資格者の条件や賦課についての細かい事を学ぶ事が出来ました。改良区同士同じ悩みや疑問を抱えている事を知ることも出来ました」

分析

- 満足・やや満足をあわせると、97%の参加者が満足であるという結果に
- 内容についても、改良区の仕事と密接に関わる事項が望まれている
- 来年度も「技術」「事務」両面から改良区をサポート出来る内容に
- アンケート結果より、各事項にもっと時間を掛けて欲しいとの要望
- 次期開催では午前を「技術系」（現地調査も含む）、午後を「事務系」とする
- このようにすることで、昼食を一緒にとれる（意見交換の場にしても）
- 意見交換会により多くの人を誘致できるような工夫も必要
- スキルアップ研修会と意見交換会をワンセットと考えてもらえる様に



今後も、技術・事務系の両面から土地改良区に必要な技術について学べる機会を作っていければと思います。来年度のスキルアップ研修会のテーマについても、皆様より随時募集しておりますので、良いアイデアをお願い致します!!